

## 8日 水曜

### テモテⅡ



4:1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

4:2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

4:3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うてもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

4:4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

4:5 しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

4:6 私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時はすでに来ました。

4:7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても…」とあります。伝道など今は無理とか、教会に誘っても来ないと思う…などと言うのを聞くことが多いですが、それでも聖書に書いてあることを話題にすることはできるでしょう。

それも無理なら行動によって「みことばを宣べ伝える」ことはできます。つまりみことばを行うのです。実はそれが一番効果のある伝え方です。またイ

エス様の方法です。

パウロはテモテに「自分につごうの良いことを言うてもらうために…」それて行くような時代になると言っています。いつの時代にもそのような異端は出現しますが、もしも私たちが聖書の教えを自分たちの都合で、取捨選択したり無視したり、または別の考えややり方ををするなら、同じことです。

パウロのように投獄されてでも、主の教えを曲げずにそのために生きた人によって、聖書は伝えられてきました。私たちもその担い手となることが主から求められているのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

